

# 『フィジカルアセスメント研修』

## 研修会実施報告

日時 : 令和3年6月30日(水)  
対象者 : ラダーIを目指す者  
参加者数 : 27名(うち新人看護師24名)  
目的 : フィジカルアセスメントの意義を理解しEBNに基づいた看護が提供できる

### <講師の紹介>

放送大学大学院文化科学研究科  
生活健康科学教授 山内豊明先生

1985年新潟大学医学部を卒業され医師として勤務された後、1997年にアメリカでナース・プラクティショナーの免許を取得されました。帰国されてから2002年名古屋大学医学部基礎看護学講座教授を経て現在の放送大学で活躍されています。

代表的な著書として「フィジカルアセスメントガイドブック—目と手でここまでわかるか」「患者さんのサインを読み取る！山内先生のフィジカルアセスメント 症状編ナース専科BOOKS」などがあります。



### <内容>



昨年に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染の影響のため、リモートで開催しました。まず、「臨床推論」のさまざまな進め方について説明をして頂き、患者さんの状態を的確に把握し対応していくための思考プロセスについて具体的に学ぶことができました。また、解剖生理学を交えた症状や病態について事例を用いながら説明して頂き、どのようにアセスメントを行うのかを一つ一つ丁寧に教えて頂きました。直接患者に触れて五感を使ってバイタルサインを測定して情報収集することが重要で、フィジカルアセスメントの基本であることを改めて実感しました。呼吸音や心音の聴診をしても聴いたことがなければ判断できないこと、それを伝えるには聴けた音を理解した上で、正しい共通用語で記録をしなければ伝わらないことも学びました。今回の研修で学んだことをいかして、自分の五感を使って患者さんの状態を観察しアセスメントを行い、適切な看護が提供できるように期待しています。